



6月 時の記念日

西暦 671 年、天智天皇が「漏刻」という水時計を使って宮中に時をつげるようになりました。この日が現在の6月10日にあたります。このことから、大正9年（1920）に当時の東京教育博物館*が6月10日を「時の記念日」に制定しました。これにちなんで『誌上時展覧会』などが発行され、時について深く考え、時間を大切にしようという考え方が広まりました。

ここでは時・暦・時計に注目してみましよう。

○時

・定時法

一日の時間の長さを一定にする時刻の決め方です。

天智天皇の時代は漏刻を使い、一年を通して一定の時刻を計っていました。一日を十二辰刻に分け、それぞれを十二支で表していました。これは8～9世紀まで使用されていましたが、戦乱や宮廷の力が弱まったことで、漏刻が維持できなくなると不定時法にかわりました。

現在の24時間制は、明治5年（1872）に太陽暦*が採用されてからのことです。

・不定時法

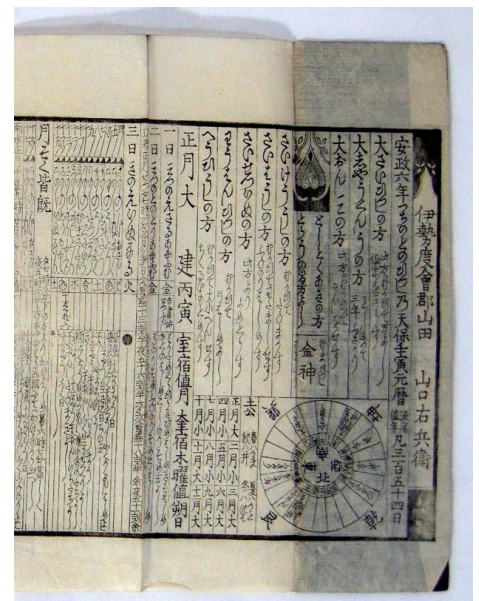
日の出と日の入りの時刻を軸に一日の長さを測るもので、季節によって一時的の長さが変わります。江戸時代には、この不定時法が定着していました。当時は、太鼓や鐘で時刻を知らせていたので、音の数によって「九ツ」「八ツ」と時刻を呼びました。

○暦

一年の月日や行事などを記した暦が伝来したのは6世紀半ば、実際に使われるようになったのは7世紀後半とされ、奈良時代以降の宮廷では暦をもとに行事がおこなわれるようになりました。しかし、庶民の間にも広まったのは、江戸時代になってからのことです。

宮廷で用いられた暦は官暦、庶民の間で用いられた暦は民間暦*といわれ、それぞれの社会で活用されていましたが、明治5年（1872）に太陽暦が採用され、現在はこの太陽暦が一般的に普及しています。

江戸時代に普及した三島暦や伊勢暦などは、大きな神社が中心となって作った暦です。



安政6年（1859）の伊勢暦 当館蔵

三島暦は、静岡県にある三島神社の^{しもしやけ}下社家*の河合家が編集し、関東を中心に配られました。

伊勢暦は、三重県にある伊勢神宮の^{おし}御師*によって^{たいま}大麻*とともに配られ、日本全国に広がりました。伊勢暦には「八十八夜」「二百十日」など伊勢地方の農業・漁業などから生まれた事柄も書かれています。



香炉時計（常香盤）当館蔵

○時計

原始的な時計には、太陽の動きを利用した日時計や、水の落ちる速さを利用した水時計があります。江戸時代の時計の一つで、現在ではめずらしい時計として^{こうろどけい}香炉時計があります。一定の速さで燃える^{こう}香の特性を利用したものでした。

この後、^{おもり}ゼンマイや^{おもり}錘を使って動かす機械時計が現れ、特に江戸時代に国内で作られたものは^{わどけい}和時計と呼ばれています。

現在では自動的に時間を調整する電波時計など様々な時計を見ることが出来ます。

本内容は、2010年6月より郷土博物館旧ホームページ内「民俗探検隊」コーナーで掲載していた記事を再編集したものです。



*ちょっと付け足し

東京教育博物館…現在の国立科学博物館

太陽暦…地球が太陽の周りを一周する時間を一年とする暦。江戸時代までは、月が新月からまた新月になるまでを一ヶ月とする「^{たいいんれき}太陰暦」と太陽暦を合わせた「太陰太陽暦」が使われていました。

民間暦…決まった作り方に従って作られている官暦に対して、民間暦は季節による自然環境の変化や固有の信仰をもとに、人々が作り出した様々な生活サイクルのこと。

社家・御師…どちらも神・神社に仕える家や人物のこと（神職）。

大麻…年末に配られる神札

参考文献：八千代市『八千代市の歴史 資料編 民俗』

小学館『日本民俗文化大系第9巻 暦と祭事＝日本人の季節感覚＝』

第一法規『日本民俗資料事典』 吉川弘文館『日本民俗大辞典』